χ二乗検定をはじめ種々の推計的手法がとられている. (金井弘夫)

□土橋 豊: **観葉植物** 1000 279 pp. 1992. 八坂書房. ¥5,800 (+送料).

園芸界では国際的な流通拡大と品種改良技術の進歩が著しい. 数年前に出版された名鑑や図録などでは見いだせぬ商品がごく普通に市場に見られることもざらである.

本書は現在市場に出回っている1, 000種類(種ではない) の観葉植物をカラー写真で紹介し, 特徴, 栽培法などを簡素に述べたものである. 著者は京都府立植物園に勤務する.

この類の著書では, まずどの程度世界各地の植物を正しく同定しているかが, われわれの関心を引く. この点では, 画期的な小学館版「園芸植物大事典」があるとはいえ, 正しい学名や園芸品種名を決めることは並み大抵のことではない. 本書は索引とともに, 同定に相当な努力を払ったと思われる. 私の気づく範囲では明かな誤りは見出せなかった.

103のカラー図版は眺めるだけでも楽しい. 解説は手ごろな入門書でもある. (大場秀章)

□川崎哲也 (解説), 奥田 寛, 木原 浩 (写真): 日本の桜 383pp. 1993. 山と渓谷社 ¥4,900.

山渓セレクションのひとつとして出版された, 日本のサクラの写真による図鑑といってよい. 各地の栽植品のほか, 野生品についてたくさんの写真が収載され, 眺めているだけでも愉しい.

しかし, 何といっても出色なのは川崎哲也氏による解説である. 植物画家としても定評のある川崎氏の解説は種のみならず栽培品種の特徴をもよく捉えている. 各種, 栽培品種には和名と学名が表記され, 巻末の「サクラ系統別一覧」にそれらがまとめられている. 本書で用いた42の新学名一覧も載せる.

日本のサクラは野生種とも栽培品種とも高い変異性を示している. これらを保全することは, 種の保全上大切なことである. 本書では数多くの雑種が推定されているが, その機構には立ち入って検討されていない.

これは蛇足だが, 野生種についての雑種という表現は, そろそろさらに深く立入って検討されるべきである.

イシヅチザクラ, ヤブザクラの学名に, 雑種を示す記号, ×が附されている. ここでは理由は省くが, 私はこれらの'雑種由来'のサクラには×は不要と考える.

これまで山と渓谷社の出版物には学術的側面に難がみられたが, 本書は実にすばらしい.

(大場秀章)

□中池敏之・Malik S. (編): **Cryptogamic Flora of Pakistan Vol. 1.** 316 pp. 1992. 国立科学博物館 (東京)・パキスタン自然史博物館 (イスラマバード).

パキスタンはインドの西側にある国で, 南のアラビア海の0mから, 北の8600mを越す雪の山まで, 地形も気候も変化に富んでいるので, 植物の種類も多いと言われている. 1990年の8月上旬から9月下旬にかけて, 文部省の国際学術研究費による日本・パキスタン合同の隠花植物の調査研究が実施された. 日本側は中池隊長以下8名, パキスタン側はSheikh, B. A. 議長およびマリク指導者以下10名の隊員から成る大部隊が, パキスタン各地で採集・同定を行なった. 採集した標本は日本の国立科学博物館とパキスタンの自然史博物館に保存されている. この報告書には24氏の研究になる17編の論文が載っている. 内訳は藻類4編: 海産藻類目録, ラン藻類, マングローブ林内の大型藻類. 菌類10編: 粘菌類, サルノコシカケ類, 担子菌類, 腹菌類, サビ菌類. 蘚苔類2編: ハイゴケ類の染色体数, セン類目録. シダ植物1編: 目録 (これには68種類の脂葉写真が付いている). (伊藤 洋)

□中池敏之: **新日本植物誌 シダ篇 改訂増補版** B5判 868 pp. 1992年11月, 至文堂, 東京. ¥25,000 (税込).

初版は1982年に出たので, 10年ぶりの新版ということになる (旧版は本誌 **57**: 211 に紹介した). この間シダ学の進展は著しく, 著者も含めた内外研究者の論文が次々と登場した. 今回の新